

日進月歩、 次の10年に向けて精進いたします。

弁護士 細谷 祐輔



顧客の皆様や地域の皆様に支えられ40周年を迎えられたことにあらためて感謝申し上げます。また、同時に当事務所に所属する一弁護士として、代表弁護士をはじめとする諸先輩弁護士の長年の弁護士活動の成果を大変誇らしく思う次第です。

私は昨年で入所15年を迎えましたが、来る設立50周年時は弁護士として25年のキャリアとなります。

次の10年も時代の変化による法制度の変化に対応しながら積み上げたキャリアで培った経験を皆様に還元し、お役に立てるよう精進して参りますので、今後とも当事務所をお引き立て下さいますようお願い申し上げます。

次の10年のために思うこと

弁護士 熊谷 建吾



人間に寿命があるように、組織や企業にも寿命があるという言説があります。40歳といえば、人間においては知識、経験、体力のバランスが取れた働き盛りと言われる時期です。開所40年を迎える当事務所も、様々な強みを持つ弁護士たちによって質の高い法的サービスを提供し得る「成熟期」を迎えつつあると自負しています。では、今後、当事務所が成熟期から衰退期に移行していくのか、あるいは、さらなる成長を遂げ、50年、60年を迎えられるのか。それは、個々の弁護士やスタッフの意識次第であると考えます。だからこそ基本を疎かにせず、かつ、社会やニーズの変化に即応できる柔軟性を併せ持った姿勢が大事ではないでしょうか。節目を機に、ふとそんな襟を正す思いに駆られた次第です。

出会った全ての方に、 育てていただき感謝します。

弁護士 日和 優人



私が事務所に入所して早くも10年の歳月が経ちます。その間、実にたくさんの依頼者の方々や関係者の方に出会い、様々な経験を積みさせていただくことが出来ました。

弁護士も法律事務所も、依頼して下さる方々や、支えて下さる方々がいなければ在り続けることは出来ません。これまで当事務所に携わっていただいた方や、今こうしてこのK&Mレポートを手にとっていただいている皆様には、改めて心から感謝申し上げます。

10年前に比べると、あの頃には想像できないくらい、法律も司法制度も社会情勢も大きく変化を遂げました。今後10年先はさらに想像を超える変化があると思いますが、これまでと同じように皆様に最適な法的サービスを提供できるよう研鑽を積み続けたいと思います。